

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月8日

上場会社名 株式会社 第一興商

上場取引所 JQ

コード番号 7458 URL <http://www.dkkaraoke.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 保志 忠彦

問合せ先責任者 (役職名) 管理本部経理部長 (氏名) 小林 成樹

四半期報告書提出予定日 平成22年2月9日

TEL 03-3280-2151

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	95,539	0.8	13,994	4.0	14,742	5.2	8,779	13.7
21年3月期第3四半期	94,785	—	13,453	—	14,020	—	7,723	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	130.77	—
21年3月期第3四半期	112.35	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	125,337	82,891	65.5	1,231.86
21年3月期	124,295	79,331	63.3	1,165.60

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 82,125百万円 21年3月期 78,640百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	45.00	45.00
22年3月期	—	20.00	—		
22年3月期 (予想)				20.00	40.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	125,000	△0.1	16,800	0.8	17,600	0.8	10,300	△5.4	154.50

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
(注)詳細は、7ページ「定性的情報・財務諸表等」4その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 66,670,596株 21年3月期 69,600,596株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 2,648株 21年3月期 2,132,586株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 67,136,950株 21年3月期第3四半期 68,748,333株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報により作成しており実際の業績は今後起こりうる様々な要因により、異なる可能性があります。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日、以下「当期間」という。）におけるわが国経済は輸出関連の一部産業に回復の兆しが見られるものの、円高やデフレ懸念の強まりから企業は新たな設備投資や人員採用に慎重な姿勢を崩しておらず、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

当カラオケ業界におきましては、個人消費が低迷するなか、クラブ・スナックなどのナイト市場は依然厳しい状況が続いており、カラオケボックスなどのデイ市場におきましても集客は軟調に推移しております。

この様ななか、当社グループにおきましては、通信カラオケ「DAM」シリーズの販売および賃貸に注力したことから、「DAM」稼働台数は着実に増加しております。6月下旬に発売したフラッグシップ商品「プレミアムDAM（DAM-XG1000Ⅱ）」の出荷も堅調に推移いたしました。カラオケ・飲食店舗事業におきましては、消費低迷や新型インフルエンザ流行の兆しなど逆風の環境のなか、従前から行なってきたスクラップ・アンド・ビルドとコストコントロールの継続により着実に利益を確保し、音楽ソフト事業では「Perfume（パフューム）」などの新作アルバムが発売され、「スタジオジブリ」のDVDとともに収益に貢献いたしました。

以上の結果、当期間の売上高は音楽ソフト事業が僅かに減収となったものの、業務用カラオケ事業とカラオケ・飲食店舗事業が増収となったことから95,539百万円（前年同期比0.8%増）となりました。利益面におきましては販売費を中心に販管費の圧縮に努めたことから営業利益は13,994百万円（前年同期比4.0%増）、経常利益は14,742百万円（同5.2%増）、四半期純利益は8,779百万円（同13.7%増）となりました。

事業の種類別セグメントの業績概況は次のとおりであります。

（業務用カラオケ事業）

当事業におきましては、長期安定的な収益獲得のため継続してストック型ビジネスの拡大に注力しており、その収益源である機器賃貸件数や「DAM」稼働台数の着実な増加を図るとともに、6月下旬に発売した「プレミアムDAM（DAM-XG1000Ⅱ）」の出荷は、大手カラオケ事業者などを中心に堅調に推移いたしました。また、オーディション番組の提供や音楽専門チャンネルとタイアップしたプロモーション企画の実施、全国規模のカラオケイベントとして定着した「全日本カラオケグランプリ」の開催などエンドユーザーに向けたプロモーション活動を通してブランドの価値向上と浸透を図り、さらなる「DAM」稼働台数の増加に努めてまいりました。

以上の結果、当期間の業績は情報提供料収入が順調に増加、景気後退による投資意欲の減退にもかかわらず新商品の投入効果と大手カラオケ事業者向け商品販売が好調に推移したことから売上高は前年同期比2.1%増加、営業利益は販売費の低減に努め前年同期比9.4%の増加となりました。

（百万円）

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	46,148	47,119	970	2.1%
営業利益	8,304	9,088	784	9.4%

主要数値

	単位	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
DAM稼働台数	（千台）	220	224	4	1.5%
（うちブロードバンド稼働台数）	（千台）	（98）	（104）	（6）	6.0%
機器賃貸契約件数・12月末	（千件）	59	61	2	4.8%
DAM出荷台数・12月末	（千台）	19	20	1	9.1%

(カラオケ・飲食店舗事業)

当事業におきましては、カラオケルーム「ビッグエコー」と飲食店舗の多店舗・複合型店舗展開を進め、今後の各地域の基幹店となる、大宮東口店（ビッグエコーに飲食4ブランド併設）や品川港南口店（ビル一棟に飲食3ブランドを展開）をオープンするとともに、新業態開発にも積極的に取り組み「夢や京恋しずく」や「湊や」などの新ブランドを投入いたしました。また、廃油・食品残渣や使用済み紙バックのリサイクル、店舗内照明のLED化を進めるなど環境に配慮した活動を行うとともに新型インフルエンザへの対応など安全・安心に向けた取り組みを徹底し、店舗ブランドの維持・向上に努めております。

以上の結果、当期間の業績は消費低迷の影響から既存店は軟調に推移したものの、飲食店舗の新店効果から売上高は前年同期比0.4%増加と僅かに増収となり、売上原価に含まれる店舗賃料などの固定費のほか間接コストの圧縮にも努めたことから営業利益は前年同期比8.2%の増加となりました。

(百万円)

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	30,895	31,033	138	0.4%
営業利益	4,617	4,994	377	8.2%

主要数値

	単位	前第3 四半期末	前期末	当第3 四半期末	当期増減	当期増減率
ビッグエコー店舗数・12月末	店	231	233	249	16	6.9%
(うち複合店舗数)	店	(28)	(29)	(30)	(1)	3.4%
〃 ルーム数	ルーム	6,694	6,678	6,993	315	4.7%
飲食店舗数・12月末	店	85	88	94	6	6.8%
〃 座席数	席	10,642	10,956	12,483	1,527	13.9%

(音楽ソフト事業)

当事業におきましては、返品率の改善やコストコントロールによる経営の効率化に取り組むなか、日本クラウンの「北島三郎」や徳間ジャパンコミュニケーションズの「水森かおり」など根強いファンを持つアーティストの作品が堅調に推移いたしました。また、徳間ジャパンコミュニケーションズでは「Perfume」のアルバム「△(トライアングル)」、「リュ・シウォン」のアルバム「万華鏡」および「スタジオジブリ」のDVD「崖の上のポニョ」、日本クラウンにおいては「九州男」のアルバム「®(マルアール)」が好調に推移し、収益に貢献いたしました。

以上の結果、各主力アーティストの作品の売上げは健闘したものの当期間の売上高は前年同期比2.4%減少し、営業利益についても原価率の高いアニメ映画DVD作品の販売比率が上昇したことおよび販売費が増加したことにより、前年同期比30.4%の減少となりました。

(百万円)

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	9,735	9,499	△235	△2.4%
営業利益	1,528	1,063	△465	△30.4%

当期間に貢献した主なアーティスト

会社名	アーティスト名
日本クラウン(株)	九州男 北島三郎 真木ことみ 三山ひろし キム・ヨンジャほか
(株)徳間ジャパンコミュニケーションズ	Perfume リュ・シウォン 水森かおり スタジオジブリの歌ほか

(その他の事業)

当事業におきましては、携帯電話向けサービスと衛星放送事業の加入者数は伸び悩んでおりますが、子会社が営むホテル事業において3軒目となる「うたゆの宿 箱根」を7月初旬に開業するなど新たな事業の拡大にも積極的に取り組んでまいりました。

以上の結果、当期間の業績は売上高が前年同期比1.5%の減少となり、携帯電話向けサービスの販売費が増加した影響から営業利益は前年同期比9.9%の減少となりました。

(百万円)

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	8,006	7,886	△120	△1.5%
営 業 利 益	1,273	1,146	△126	△9.9%

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ1,042百万円増加し、125,337百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動資産では、現金及び預金が437百万円、受取手形及び売掛金が319百万円、流動資産のその他に含まれる、前払費用が650百万円それぞれ増加しております。

固定資産では、カラオケルーム及び飲食店舗設備が436百万円増加し、敷金及び保証金が221百万円、投資その他の資産のその他に含まれる、長期貸付金が142百万円それぞれ減少しております。

負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べ2,517百万円減少し、42,446百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動負債では、短期借入金が3,902百万円、流動負債のその他に含まれる、未払金が608百万円それぞれ減少し、支払手形及び買掛金が815百万円、未払法人税等が2,779百万円それぞれ増加しております。

固定負債では、長期借入金が1,735百万円減少しております。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ3,559百万円増加し、82,891百万円となりました。

これは主に、四半期純利益による利益剰余金の増加8,779百万円、剰余金の配当による利益剰余金の減少4,369百万円によるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期末における現金及び現金同等物（以下資金という。）は、前連結会計年度末に比べ489百万円増加し、30,073百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前四半期純利益が14,282百万円、減価償却実施額が10,113百万円及び法人税等の支払額が3,077百万円等により、前年同期に比べ3,218百万円増加し、22,574百万円となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、有形固定資産の取得による支出が7,343百万円及び無形固定資産の取得による支出が2,907百万円等により、前年同期に比べ2,019百万円減少し、11,093百万円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、長期借入金の返済による支出が8,426百万円、配当金の支払額が4,362百万円、及び長期借入による収入が2,860百万円等により、前年同期に比べ2,136百万円増加し、10,994百万円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年3月期の業績予想につきましては、当第3四半期の業績が概ね予想通り推移しており、平成21年11月9日付け「平成22年3月期 第2四半期決算短信」において公表した業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）
該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

1. 簡便な会計処理

法人税等の算定方法

法人税等の算定方法は、課税所得の計算における加減算項目及び税額計算における税額控除項目を、重要なものに限定する方法によっております。

2. 特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	30,440	30,003
受取手形及び売掛金	9,244	8,925
たな卸資産	4,510	4,778
その他	6,197	5,062
貸倒引当金	△435	△446
流動資産合計	49,956	48,321
固定資産		
有形固定資産		
カラオケ賃貸機器（純額）	7,405	7,537
カラオケルーム及び飲食店舗設備（純額）	14,007	13,571
土地	18,352	18,463
その他（純額）	7,557	8,104
有形固定資産合計	47,322	47,677
無形固定資産	7,090	7,026
投資その他の資産		
敷金及び保証金	13,111	13,332
その他	8,782	8,916
貸倒引当金	△924	△979
投資その他の資産合計	20,968	21,269
固定資産合計	75,381	75,973
資産合計	125,337	124,295
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,029	4,214
短期借入金	7,116	11,018
未払法人税等	4,177	1,397
賞与引当金	918	1,167
その他	9,998	10,190
流動負債合計	27,241	27,988
固定負債		
長期借入金	8,442	10,178
退職給付引当金	3,007	2,891
役員退職慰労引当金	1,994	2,105
負ののれん	295	335
その他	1,465	1,464
固定負債合計	15,205	16,975
負債合計	42,446	44,964

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,350	12,350
資本剰余金	17,285	20,362
利益剰余金	53,617	49,207
自己株式	△3	△2,094
株主資本合計	83,250	79,825
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△258	△317
土地再評価差額金	△777	△777
為替換算調整勘定	△88	△90
評価・換算差額等合計	△1,125	△1,184
少数株主持分	765	690
純資産合計	82,891	79,331
負債純資産合計	125,337	124,295

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	94,785	95,539
売上原価	53,976	54,777
売上総利益	40,809	40,762
販売費及び一般管理費	27,355	26,768
営業利益	13,453	13,994
営業外収益		
受取利息	175	134
受取配当金	84	82
受取協賛金	261	337
負ののれん償却額	41	40
その他	588	610
営業外収益合計	1,152	1,205
営業外費用		
支払利息	255	198
為替差損	185	102
その他	144	156
営業外費用合計	585	457
経常利益	14,020	14,742
特別利益		
固定資産売却益	16	10
投資有価証券売却益	7	0
貸倒引当金戻入額	107	25
賃貸借解約補償金	119	248
関連事業整理損戻入益	148	—
その他	—	11
特別利益合計	399	297
特別損失		
固定資産処分損	331	260
減損損失	—	377
投資有価証券売却損	6	—
関係会社株式売却損	—	57
投資有価証券評価損	1,120	60
特別損失合計	1,459	756
税金等調整前四半期純利益	12,960	14,282
法人税、住民税及び事業税	5,081	5,908
法人税等調整額	42	△483
法人税等合計	5,124	5,424
少数株主利益	111	78
四半期純利益	7,723	8,779

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	12,960	14,282
減価償却費	10,199	10,113
減損損失	—	377
負ののれん償却額	△41	△40
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	—	△65
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△231	△248
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	165	△111
受取利息及び受取配当金	△260	△216
支払利息	255	198
固定資産処分損益 (△は益)	315	250
投資有価証券評価損益 (△は益)	1,120	60
売上債権の増減額 (△は増加)	△406	△303
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△836	307
カラオケ貸貸機器の売上原価振替	456	346
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,104	819
その他	792	△139
小計	25,593	25,631
利息及び配当金の受取額	259	217
利息の支払額	△253	△196
法人税等の支払額	△6,244	△3,077
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,355	22,574
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期性預金の預入による支出	△256	△178
定期性預金の払戻による収入	326	230
有形固定資産の取得による支出	△8,522	△7,343
有形固定資産の売却による収入	74	25
無形固定資産の取得による支出	△3,068	△2,907
映像使用許諾権の取得による支出	△885	△881
投資有価証券の売却による収入	136	8
貸付けによる支出	△662	△154
貸付金の回収による収入	529	313
敷金及び保証金の差入による支出	△1,188	△405
敷金及び保証金の回収による収入	461	235
その他	△58	△35
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,112	△11,093
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△474	△71
長期借入れによる収入	2,490	2,860
長期借入金の返済による支出	△8,009	△8,426
配当金の支払額	△1,732	△4,362
自己株式の取得による支出	△1,128	△984
その他	△4	△9
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,858	△10,994
現金及び現金同等物に係る換算差額	△150	3
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,765	489
現金及び現金同等物の期首残高	28,300	29,584
現金及び現金同等物の四半期末残高	25,534	30,073

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）

	業務用カラ オケ事業 (百万円)	カラオケ・飲 食店舗事業 (百万円)	音楽ソフト 事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	46,148	30,895	9,735	8,006	94,785	—	94,785
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	205	—	129	625	960	(960)	—
計	46,354	30,895	9,864	8,631	95,745	(960)	94,785
営業利益	8,304	4,617	1,528	1,273	15,724	(2,270)	13,453

当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

	業務用カラ オケ事業 (百万円)	カラオケ・飲 食店舗事業 (百万円)	音楽ソフト 事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	47,119	31,033	9,499	7,886	95,539	—	95,539
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	223	—	155	644	1,023	(1,023)	—
計	47,343	31,033	9,654	8,531	96,563	(1,023)	95,539
営業利益	9,088	4,994	1,063	1,146	16,293	(2,299)	13,994

(会計処理基準に関する事項の変更)

前第3四半期連結累計期間

(たな卸資産)

音楽ソフト事業において、前連結会計年度まで営業外費用に計上しておりました、たな卸資産評価損は、第1四半期連結会計期間より売上原価として処理しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間における音楽ソフト事業の営業利益は306百万円減少しております。

(販売促進費の計上区分)

業務用カラオケ事業において、販売促進効果を目的とする販売促進費を営業費用として計上しておりましたが、第2四半期連結会計期間より、その一部について売上高の控除項目として処理しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間における業務用カラオケ事業の売上高は622百万円減少しておりますが、営業利益に対する影響はありません。

当第3四半期連結累計期間

該当事項はありません。

〔所在地別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）及び

当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）及び

当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

（6）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. その他の情報

該当事項はありません。